

ジングアカデミー東京 第三回定期演奏会

H. シュツ「音楽の葬送 (Musikalische Exequien)」SWV279-281

J. ブラームス「2つのモテット (Zwei Motetten)」Op.74

- なぜ光は与えられたのか (Warum ist das Licht gegeben)
- おお救い主よ、天を引き開けて (O Heiland, reiß die Himmel auf)

R. マウエルスペルガー

葬送のモテット

「何ゆえこの町は荒れ果ててしまったのか (Wie liegt die Stadt so wüst)」

オルガン：能登 伊津子 コントラバス：蓮池 仁

指揮：大島 博

2012年3月18日 (日)

13:30開場 14:00開演

会場：浜離宮朝日ホール

前売り ¥3,000 当日 ¥3,500 学生 ¥2,500

お問い合わせ Tel/Fax 03-3351-0705 (金子)

singakademietokyo@gmail.com

Singakademie
Tokyo

「ジングアカデミー東京」第3回演奏会への序説

人は絶望の淵に立たされた時、何を思い、どの様にそれを乗り越え得るのか…。今回はこの事をテーマに曲を選びました。

R. マウエルスベルガー (1889-1971) は、第2次世界大戦前から40年にわたってドレスデン聖十字架教会のカントルを務めた、ドイツ宗教音楽界の重鎮です。葬送モテット『Wie liegt die Stadt so wüst(何ゆえにこの町は荒れ果て)』は、1945年、連合軍の大空襲によって破壊されたドレスデンの町とその犠牲者を悼んで作曲され、敗戦の夏に廃墟となった聖十字架教会で初演されました。テキストは旧約聖書中エルサレムの破壊を嘆く「エレミア哀歌」から取られ、沈黙する神への激しい問い合わせが繰り返されます。

J. ブラームス (1833-1897) のモテット『Warum ist das Licht gegeben(なぜ光は与えられるのか)』は、同じ旧約の「ヨブ記」の記述で始まります。神に従い、心正しく幸せに生きてきたヨブは、その神に試され、辛酸を舐め尽します。苦しみの中でヨブはひたすら死を求めるが、それすらも許されませんでした。しかし友人達との激しい議論を経て、彼は人智を超えた神の意思に逆らう事の不可能性を深く悟り、救われるのです。

H. シュツツ (1585-1672) の『Musikalische Exequien (音楽の葬送)』は、彼の故郷の領主で、良き理解者でもあった H. ポストフームスの死に際して書かれ、その葬送の音楽として用いられました。旧約及び新約聖書の聖句にコラールを織りませ、愛する者を失った深い悲しみがいやされ、死者の靈が浄福の中に天に迎えられるようにと祈ります。

心を尽くして書かれたこれらの作品を通して、絶望から希望へ、苦悩から安らぎへと向かう道を辿りたいと思っています。

大島 博

ジングアカデミー東京

大島博の呼びかけにより、19世紀ドイツで隆盛を誇った合唱音楽の研究、演奏運動に範を求め、さらに遠く「アカデメイア(快楽)」の原義に戻って、「歌う快楽(Singakademie)」を追求しようと2009年発足。各人が自立した音楽家として作品を取り組み、自由な雰囲気の中で有機的なつながりを持つ集合体として、完成度の高い音楽を創り上げることを目指しています。これまでに、H. シュツツ「マタイ受難曲」、F. リスト「十字架への道」などを演奏してきましたが、今後も比較的演奏される機会の少ない佳曲に取り組んで行く予定です。

大島 博

熊本県生まれ。中央大学法学部卒業後、東京藝術大学音楽学部声楽科に入学。渡辺高之助、高 大二、原田茂生、中山樹一の各氏に師事。86年、同大学院在学中にミュンヘン音大に留学、エルンスト・ヘリガーに学ぶ。90-91年D. フィッシャー=ディースカウに師事。95年東京藝術大学大学院博士課程を修了。

宗教曲の分野で、初期バロックから現代作品まで幅広いレパートリーを持ち、とりわけバッハの演奏者として定評がある。また、ドイツ・リート及び日本歌曲の演奏にも積極的に取り組んでおり、自主企画によるリサイタルに加えて各地での客演も数多い。96年からは<ドイツ・リートのたのしみ>と題した、ドイツ歌曲を知るためにレクチャーを継続中。

近年は、さらに合唱指揮者、発声指導者としてもその活動の幅を広げている。国立音楽大学非常勤講師。アンサンブル<BWV2001>メンバー。

浜離宮朝日ホール

都営大江戸線
築地市場駅 A2 出口すぐ

